

2024 年度第 2 回 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム協議部会

議事要旨

議題

1. 「にも包括」推進に関する課題整理について(説明:資料1・2)

(主な意見)

■障害福祉の中でも複数の支援機関が関係する移行期の連携が困難

(例)児童→成人への移行、障害福祉→介護保険への移行、多重障害など 3 障害の一体的な対応

■地域生活を送るうえでの生活支援の充実の視点も大切

■ヤングケアラーや 8050 問題等、家族を含めた世帯支援の必要性

■通常業務に付随して発生する関連業務の労力への評価がなく疲弊。手薄な時間帯へのプラス評価等、何らかの対応が必要

2. 神戸市の「にも包括」推進の方向性、取り組みについて(資料3)

(主な意見)

(正しい理解の啓発・情報発信)

■自分たちがわかりやすい自分たちのためのにも包括の情報発信・広報の必要性(当事者・支援者)

■家族の理解や関わり方が当事者への予後にも影響するため、家族への啓発が重要

■精神障害者への差別偏見の解消

(精神医療保健)

■投薬等だけでなく医療者と当事者による共同意思決定ができる精神科医療のあり方

■当事者が適切なタイミングで入院医療を含めて正しく治療手段を使うことができる仕組み

■地域の中で精神疾患や精神障害を予防するメンタルヘルスの取り組み

(地域生活)

■スムーズかつ丁寧で持続可能な地域移行・地域定着の仕組み

■地域で安心して生活できるような 365 日 24 時間の仕組み(障害者地域生活支援拠点等)

(ネットワークづくり・地域づくり)

■支援者自身の自己開示、情報発信と顔の見える関係づくり

■独居の精神障害者を地域で支えるネットワークづくりや何ができるのかの検討の場

■当事者自身は「にも包括」の担い手となる存在であるという視点が必要

(まとめ)

課題解決にあたっては、行政とともに、現場で自分たちができることも含めて考えていく。

本日協議のキーワード

■精神障害への正しい理解の啓発及び差別の解消

■居場所・生活支援:(当事者にとっての)緊急事態への対応等 24 時間の安心が提供できる仕組み

■保健、福祉、行政その他を、当事者や家族が効率よく使えるよう、また自己決定できる情報発信

■当事者と周囲の疲労、家族、支援者等への総合的なサポート。皆の共生と健康が重要。

■既存のサポートシステムを支援者が相互に使い、支い合えるネットワークづくり